



- 1) 日本頭痛学会理事 山脇 健盛 先生よりご寄稿
- 2) 第15回日本頭痛学会専門医試験実施の実施のお知らせ
- 3) 第50回日本頭痛学会総会 演題募集のご案内
- 4) 第64回米国頭痛学会年次総会における Pacific Rim Symposium の開催について
- 5) 「頭痛の診療ガイドライン 2021」のホームページ内公開について
- 6) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します



- 1) 日本頭痛学会理事 山脇 健盛 先生よりご寄稿



第3の痛みのメカニズム「痛覚変調性疼痛(nociplastic pain)」

広島通信病院 内科 山脇 健盛

2020年に痛みに関連する学会間における情報交換や臨床・研究での共通課題を話し合う場として日本痛み関連学会連合(日本疼痛学会, 日本ペインクリニック学会, 日本慢性疼痛学会, 日本腰痛学会, 日本運動器疼痛学会, 日本口腔顔面痛学会, 日本ペインリハビリテーション学会, 日本頭痛学会の8学会)が発足, さらに2021年3月には, 痛み学会連合用語委員会(委員長:東京慈恵医大 加藤総夫教授)が発足し, 日本頭痛学会からは筆者が委員として参加いたしました。

主たる任務は, IASP(世界疼痛学会)より2016年に提唱され, 2017年に新たな用語として採択された, “nociplastic pain”の日本語訳を策定することでした。痛みが生じるメカニズムとしては, 組織の損傷により侵害受容器が活性化され生じる「侵害受容性疼痛(nociceptive pain)」, 体性感覚神経系の病変により生じる「neuropathic pain(神経障害性疼痛)」が知られていますが, 以前から, 原因となる組織や神経の損傷がないにもかかわらず, 神経系の可塑的变化・機能的变化によって生じる痛みの存在が指摘されており, “nociplastic pain”と名付けられました。委員会では, 数回のweb会議で議論を重ね, 最終的に「痛覚変調性疼痛」と決定, 2021年9月に痛み学会連合評議員会に答申, 承認を得ました。

「痛覚変調性疼痛」が関与する痛みとしては, 線維筋痛症, 複合性局所疼痛症候群, 慢性腰痛症などが知られ

ています。頭痛領域では、口腔内灼熱症候群(BMS)(ICHD-3 code13.11)や持続性特発性顔面痛(PIFP)(同 13.12)での関与が指摘されています。片頭痛や緊張型頭痛の慢性化にも関与している可能性も考えられます。

本年5月に開催される第63回日本神経学会学術大会において、5月18日(水)9時50分～11時50分に、「神経疾患における痛みを改めて考える」という教育コースを企画させていただきました。その中で基調講演的に今回の用語委員長を務められた加藤総夫先生に「痛覚変調性疼痛」を中心とした痛みのメカニズムについてお話いただく予定です。アーカイブ配信もある予定ですので、是非ともご聴講いただければと思います。

2) 第15回(2022年度)日本頭痛学会専門医試験実施について

第15回日本頭痛学会専門医認定試験を下記の要領で行います。受験を希望される方は、受験資格をご確認のうえ、所定の手続きを行ってください。なお、新型コロナウイルス感染症のまん延状況によっては変更がある可能性がありますので、最新の情報を日本頭痛学会ホームページでご確認ください。

1. 試験日時: 2022年8月6日(土) 10:00～16:00
2. 試験会場: 都市センターホテル (〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1)
(東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」駅 4番・5番出口より徒歩約4分)
3. 試験方法: マークシート方式による筆記試験(200問出題)
4. 申請書受付期日: 2022年5月31日(消印有効, 厳守)

※受験資格・申請書類など詳細は、日本頭痛学会ホームページをご参照ください。

https://www.jhsnet.net/dl/senmoni_shiken_15.doc

3) 第50回日本頭痛学会総会 演題募集のご案内

今年度の日本頭痛学会総会が今秋東京で開催されます。演題募集が5月10日より始まりました(締め切り:7月20日)。多数の皆さまのご応募・ご参加をお待ちしています。

1. テーマ: 「頭痛診療と社会貢献」
2. 会期: 2022年11月25日(金)・26日(土)
3. 会場: 品川プリンスホテル アネックスタワー(〒108-0074 東京都港区高輪 4丁目 10-30)
4. 会長: 五十嵐 久佳 先生 (富士通クリニック)
5. 総会 HP: <https://jhs50.jp/index.html>

※総会の概要や最新情報については、第 50 回日本頭痛学会総会ホームページをご参照ください。

4) 第 64 回米国頭痛学会年次総会における Pacific Rim Symposium の開催について

日本頭痛学会は、国際対応委員会を通じて米国頭痛学会(American Headache Society :AHS)の Pacific Rim Committee/Symposium の活動をサポートしています。このたび、第 64 回 AHS 年次総会において、現地時間 2022 年 6 月 9 日 10:30 (日本時間 6 月 10 日 1:30)から、「CGRP 関連抗体薬が参加各国の片頭痛診療にどのような影響を与えたか」というテーマでディスカッションされる予定です。日本からは、座長を柴田護先生が台湾の Shih-Pin Chen 先生と務められ、シンポジストとして團野大介先生がご発表されます。ご興味のある方は、第 64 回 AHS 年次総会に参加登録の上ぜひご視聴ください。

[64th Annual Scientific Meeting | American Headache Society](#)

5) 「頭痛の診療ガイドライン 2021」のホームページ内公開について

日本神経学会、日本頭痛学会、日本神経治療学会の共同監修として、昨年 8 年ぶりに頭痛の診療ガイドラインが改訂され出版されました。その内容について、このたび全編が日本頭痛学会のホームページ内に公開されています。ぜひ日々の頭痛診療にご活用ください。

<https://www.jhsnet.net/pdf/guideline 2021.pdf>

6) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- 片頭痛発症リスクに關与する 123 個の遺伝子座の判明

Hautakangas H, et al. Genome-wide analysis of 102,084 migraine cases identifies 123 risk loci and subtype-specific risk alleles. Nat Genet 2022 Feb 3. doi: 10.1038/s41588-021-00990-0

掲載日:2022/2/14 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutu topics 129.pdf>

- 片頭痛病態の男女差: プロラクチンを介した視床下部による硬膜侵害受容器活性化機構

Watanabe M, et al. Dysregulation of serum prolactin links the hypothalamus with female nociceptors to promote migraine. Brain. 2022 Mar 24;awac104. doi: 10.1093/brain/awac104.

掲載日:2022/4/14 <https://www.jhsnet.net/pdf/zutu topics 130.pdf>

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見, 問い合わせは<jhs-office@shunkosha.com>までお願いいたします.